

空き店舗を活用して障がい者の福祉作業所、コミュニティスペースを整備。誰もが集える場を提供したことで、商店街に新たな人の流れが生まれた。

小浜まちづくり株式会社

機関名	小浜まちづくり株式会社		
所在地	長崎県雲仙市小浜町北本町 862		
電話番号	0957-74-3171		
地域概要	(1)管内人口 11千人	(2)管内商店街数 2商店街	
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 1	(2)会員数 40商店	
	(3)空き店舗率 13%	(4)大型店空き店舗数 0	
	中央商店街		
商店街の種類	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 3. 地域型商店街 4. 近隣型商店街		

【事業名と実施年度】

平成 16 年度 コミュニティ施設活用事業（高齢者等交流施設）

- ・コミュニティスペース
- ・障がい者福祉作業所
- ・地域特産品販売所

総事業費 11,358 千円

【事業実施内容】

1. 背景

長崎県雲仙市小浜町は、長崎県の東南にあたる島原半島の西部に位置し、面積 50.84k㎡のうち雲仙岳を中心とする山林が 64%の面積を占めている。人口は 10,877 人で昭和 22 年をピークに減少が続く。

農業・林業の町であるとともに、全国にも名高い観光地であり第 3 次産業従事者は 65.6%を占めている。しかしながら、雲仙普賢岳の噴火後、観光客の減少が著しく厳しい状況となり、小浜町の中心市街地である小浜温泉の中央商店街は、近年の宿泊観光客の減少により、観光に依存していた土産物店、飲食店等の廃業が相次ぎ、空き店舗が歯抜け状態に目立ってきた。

そこで、平成 12 年小浜町が小浜町中心市街地活性化基本計画を策定。平成 14 年に小浜町と小浜町商工会が主体となり「小浜まちづくり株式会社」を設立して、計画の推進を図ってきた。計画では「こころばかばか小浜温泉」をキャッチフレーズに、高齢者、障がい者等



小浜町の位置（長崎県 HP より）

をやさしくもてなすとともに、商業や福祉、文化、居住等の機能についても超高齢化社会における新しい地域モデルとなる先端的な取り組みをすすめ、観光や視察など新たな集客を生むまちづくりを目指している。

2. 事業内容

本事業は、中央商店街の中心に位置する空き店舗（旧・湯せんぺい製造販売の土産物店）を改装し、障がい者福祉作業所、地場特産品の販売、コミュニティスペースとして活用することで、新たな集客を図ることを目的とする。

(1) 「おばまコミュニティスペース もくもく」

営業時間 10時～18時（作業 10時～16時）

定休日 毎月第2・4日曜日（作業 土日祝日）

①施設概要

（床面積 96.9㎡、改装費 6,510,000円）

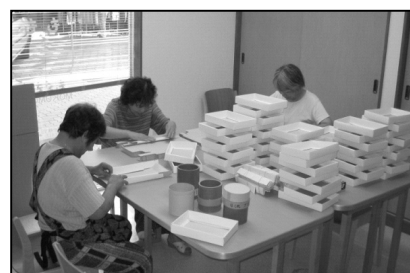
- ・作業所、販売所スペース
- ・和室8畳2間
- ・給湯室（流し台、ガス給湯器）
- ・トイレ（障がい者用、ウォッシュレット）
- ・洗面所
- ・収納庫、棚等



②障がい者等福祉作業所

店舗の一部を障がい者の福祉作業所とし、平成16年9月13日から軽度の障がい者4名が従事し、軽作業を行った。3月末まで延べ220人で実施した作業は次の通り。

- ・「湯せんぺい」の丸箱製作 1,046個
- ・菓子箱折り 13,800個
- ・シール貼り、ラミネート 28,150枚



③地場特産品販売所

施設が小浜温泉名所めぐりの散策コースにあり、観光客が立ち寄る休憩所としての利用を推進するとともに、小浜温泉と雲仙温泉の間に位置する公営「ふれあいの村」の寿楽窯で作られた陶器と「さおり工房ながさき」のさおり織等を販売した。また、オリジナル商品として小浜温泉の「湯の華」の商品化に向けて準備をすすめた。（平成17年5月から販売）。



「作業所の様子（上）と
ふれあい村の陶器（下）」

④コミュニティスペース

地域の交流により中央商店街に新たな動線（人の流れ）が生まれるように、休憩所として和室を開放し、湯茶のサービスを行った。バス通学の小中学生はバス待ち時間に宿題をしたり、絵を描いたりして楽しんでいる。

その他、和室を活用して次のようなイベントを実施した。

- ・「おばま産業祭」に休憩所として開放し、抹茶の振る舞いや子供向けのゲーム等を実施した。（当日入館者 664 人）
- ・本の読み聞かせ、紙芝居などの市民グループ「おはなしのろうそくの会」が、和室の床の間を利用して「もくもくぶんこ」を開設、あわせて毎月第3土曜日午後、読み聞かせ「おはなしのろうそく」を開催（計4回、44人が参加）した。
- ・町内で整骨院を運営している本事業の運営委員が、整体講座を開催。（10人参加）

<平成16年9月13日から3月末日までの施設利用者数>

小中学生以下	:	2,258人
高校生	:	185人
大人	:	1,681人
合計	:	4,124人



▲バスの待ち間に宿題に取り組む子供



▲産業祭のゲームの様子

【 効 果 】

1. 商店街の組織

コミュニティスペースの和室に商店街の若手が集い“夜なべ談義”するなど、商店街内の交流が深まり、組織的な行動が深まりつつある。

2. 来街者の行動

子供たちが施設に立ち寄ることで、保護者の来訪も増えてきた。また、観光客に配布されている「小浜温泉名所さるくマップ」に掲載され、商店街を散策する人も多くなってきた。

3. 近隣個店への波及

若手後継者が集い語らう中から、店舗改装やショップモビリティなど、人に優しいまちづくりの取り組みがみられた。

【 課 題 ・ 反 省 点 】

・事業費の確保

コミュニティ事業として、引きこもりがちな障がい者や高齢者へ参加を呼びかけ、小浜温泉名物「湯せんぺい」の丸箱作り作業を行っているが、施設の収入は僅かであり、作業者の持続性、確保も難しい状況にある。また地場製品の販売も近隣商店との競合から商品が限定され、経営が困難である。

【 事 業 の 実 施 ポ イ ン ト 】

空き店舗の存在は商店街のイメージダウンとなる。空き店舗の活用については商店街全体の組織的な運動、財政支援のもとで取り組まなければ持続することが難しい。

【 関 連 U R L 】

小浜町 <http://www.town.obama.nagasaki.jp/index.phtml>

おばまコミュニティスペースもくもく

<http://www.town.obama.nagasaki.jp/index.phtml?m=ArtView&articleid=146&categoryid=6>